

Corporate Social Responsibility

CSRレポート 2017



太平洋工業株式会社

企業理念

わが社はメーカーとして

- 1 技術開発に努め、お客様の要望に応えた高いレベルの商品を提供していきます。
- 2 人間尊重を基本に、社員が“働く楽しみ”、“創る満足”を得る“場”を提供していきます。
- 3 地球環境保全に努め、社会から期待される“良い会社”でありつづけます。

経営理念

「オープンでクリエイティブな経営」 「e-companyの実現」

e-companyとは

engineering
技術を売り物に

ecology
環境に配慮し

e-business
e ビジネス

emotional
活気に溢れ

efficiency
効率的に仕事をし

enrich
収益を確保しながら

enjoy
豊かな生活を楽しむ

PACIFICの行動指針

P rinciple	基本	基本を確認、基本に徹する
A ction	実行	自ら考え、自ら実行
C reation	創造	創造は喜び。 創意工夫をこらす
I nnovation	革新	現状維持は後退。 革新で明日を開け
F airness	公正	事実の把握、 客観的基準で判断
I nformation	情報	確実な報・連・相と徹底議論
C hallenge	挑戦	失敗を恐れるな

PACIFICの技術開発指針

P recision	精密	高精度加工技術 緻密な現象観察と解析
A ctive	能動	めざす姿実現に向けての活動
C reative	創造	発想の転換、独創、 違いの本質究明
I nventive	発明	特許の取得、差別化、 優位性の確保
F ine	洗練	スマートな技術・製品
I mprove	進歩	昨日より今日、今日より明日
C omposite	総合	技術の複合・合成・集積

P07 特集 1		トップ対談 ものづくりは、人づくり 人づくりは、 こころづくり
P11 特集 2		社会課題に応える 製品開発
P13 特集 3		グローバルに 広がる 太平洋工業 P13 事業編 P15 社会編

イントロダクション 企業理念・経営理念 01 目次 02 トップメッセージ 03 編集方針 04 会社紹介 05 会社案内・事業案内 05	マネジメント 太平洋工業グループのマネジメント 17 太平洋工業グループの CSRマネジメント 19 CSR活動の実績 21 ガバナンス 23 経済的側面の報告 顧客重視とサプライヤーとの協働 25 社会的側面の報告 従業員とともに 27 社会貢献活動 29 環境的側面の報告 環境経営の実践 31 地球環境との調和・コミュニケーション 33 第三者意見 34
特集 1 トップ対談 ものづくりは、人づくり 人づくりは、こころづくり 07	
特集 2 社会課題に応える製品開発 11	
特集 3 グローバルに広がる太平洋工業 事業編 13	
グローバルに広がる太平洋工業 社会編 15	

ものづくりを通じて新たな価値 持続可能な社会への貢献をめざ



当社グループは、長期ビジョン「PACIFIC GLOBAL VISION 2020」に対する具体的アクションプランとして中期経営計画「OCEAN-18」を策定し、達成に向けた諸施策を実行してまいりました。

2016年度は、需要が増加している超ハイテン材(超高張力鋼板)加工技術の開発やホットスタンプ設備の稼働、TPMS(タイヤ空気圧監視システム)の日米中での3拠点生産体制確立、タイでの樹脂製品の受注拡大、韓国でのアルミダイカスト製品の新工場建設など、各地域・各分野で高水準の設備投資を行い、飛躍に向けた基盤づくりを行ってきました。それらが順調に稼働することで収益確保と今後の更なる成長の見通しにつながり、格付け評価が上がるなど、経営の好循環が生まれています。

その結果、2018年を待たずして「OCEAN-18」目標値達成の目処がたち、今年10月、ローリングプランとして新中期経営計画「OCEAN-20」を策定いたしました。策定にあたっては、2030年に迎える創業100周年を見据え、職場ごとに課題やあるべき姿についてディスカッションし、従業員の想いを込めた内容といたしました。

事業活動に注力すると同時に、企業価値の向上をめざした取り組みも行っています。経営の品質・透明性・公平性を重視したガバナンス体制の構築や、コーポレートガバナンス・コード全項目の遵守等を推進しています。社会貢献活動も積極的に行っており、2016年度はタイの事業体でマングローブの植樹を行うなど、海外拠点におけるCSR活動推進の風土も根付いてきています。今後もグループ全体でCSR活動に取り組み、全てのステークホルダーに対して誠実に向き合い、信頼され、期待される企業であり続けたいと考えています。

また、企業が持続的発展を続けるためには、持続可能な社会の構築に貢献しなくてはならないと考え、環境に優しい製品・工法・技術の開発を進めております。燃費向上のための部品軽量化と、安全性・環境性を追求した製品開発、ものづくり改革を加速しており、昨年は、軽

の創造に挑戦し、 してまいります。

量化や安全性向上を実現した製品・技術開発に対し、外部から高い評価をいただきました。今後も長年にわたって培った技術をベースに、新しい発想を組み合わせ、次世代を見据えたものづくりで、人とクルマが共生できる豊かな社会の実現に寄与してまいります。

そうした技術開発や競争力のある企業活動の源泉となるのは「人財」です。当社グループは2015年、創業85年を機に、国内外を含めた多様な人財の心をつなぐための普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」を制定しました。「夢と挑戦」「信頼と感謝」という心構えをグループ全体で共有し、これに基づいた行動がとれる人財の育成のため、価値観の周知・定着活動に努めてまいります。同時に、「ものづくりは人づくり」の信念のもと、高い企業力を維持するために必要な次世代人財の継続的な育成に取り組んでいます。特に、海外拠点の自立化を目標としたローカルスタッフの教育には力を入れており、現地でマネジメントができる体制構築を推進しています。

また、多様な価値観を持つ人財が、いきいきと働けるダイバーシティの推進、従業員が継続して働ける環境を整えるための子育てや介護に関する各種制度の充実、働き方改革、ワークライフバランスの取り組みなどに努め、今以上に活力ある組織づくりに取り組んでまいります。

これからの自動車関連業界は、自動運転やコネクテッドカーの開発、AI・IoTの活用など大きく環境が変化していきます。当社グループは、競争力のある新製品の開発とともに環境変化に耐えうる健全な経営基盤を確立し、持続可能な社会への貢献とステークホルダーの皆様との絆を深める活動に取り組み、企業価値の向上をめざしてまいります。皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

小川 信也

CSRレポート2017 編集方針

太平洋工業グループは、持続可能な社会の構築に向け、より多くのステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションの充実を図るため、2007年から「CSRレポート」を発行しています。

今年で11号目となる2017年度版は、Webサイトを活用して網羅的に情報を開示するとともに、より多くのステークホルダーの皆様にお読みいただきたい内容を、特集を中心としたダイジェスト版(冊子)にまとめています。皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。

その他の媒体

■Webサイト

CSRに関する情報を網羅的に掲載し、当レポートでご紹介できなかったCSRの取り組みや、数値・データ等の詳細を開示しています。

■インベスターズガイド

事業概況や財務情報など投資家向けの情報をわかりやすくまとめたもので、日本語版と英語版を作成し、開示しています。

■有価証券報告書

金融商品取引法に基づき、期末時点での企業情報や、事業内容、業績、株式情報、リスク情報、財務情報などをまとめたもので、文章主体で詳細まで記載されている開示資料です。

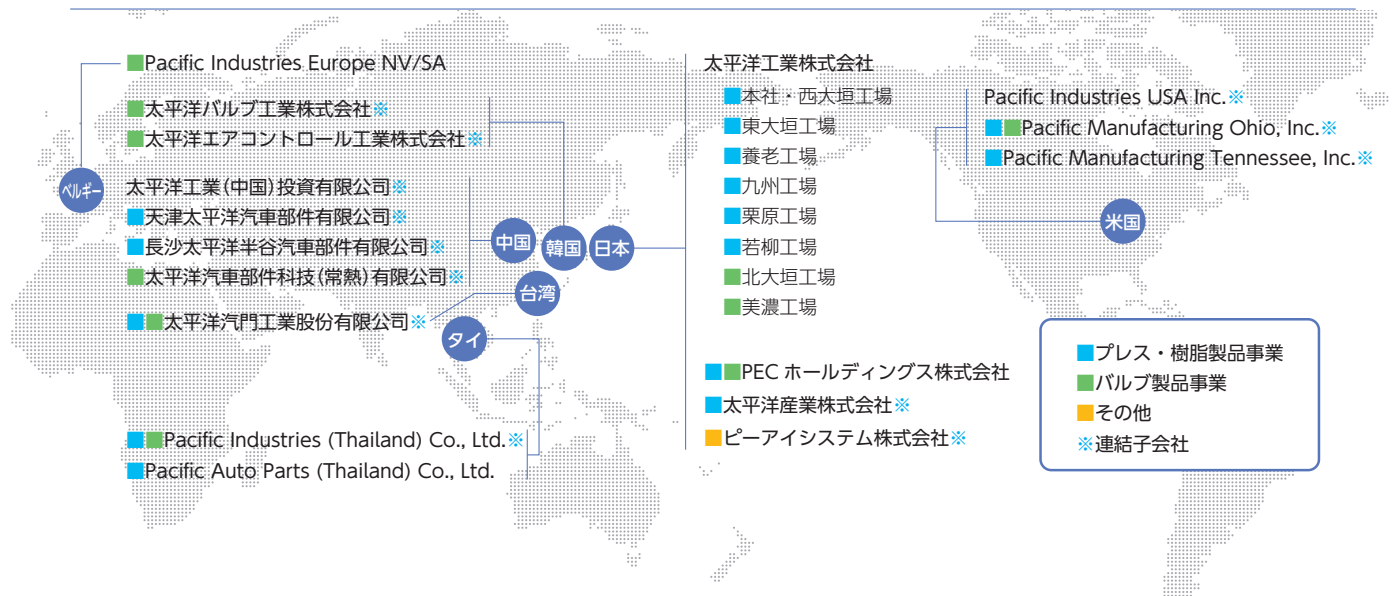


対象期間	2016年4月1日～2017年3月31日 (一部発行時点での最新情報を記載しています)
対象範囲	当社および一部太平洋工業グループを含む
発行日	2017年10月31日
発行部署	太平洋工業株式会社 総務部 TEL 0584-93-0113 FAX 0584-92-1804
参考とした ガイドライン	環境報告ガイドライン(2012年版) GRIガイドライン(第4版)

会社概要 (2017年3月末現在)

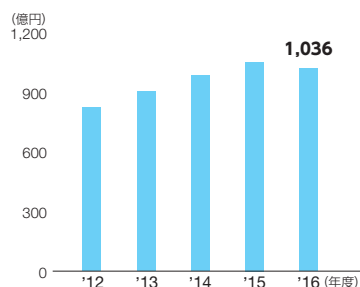
社名	太平洋工業株式会社 PACIFIC INDUSTRIAL CO., LTD.	社員数	1,680名 (連結3,510名)
設立	1930年8月8日	事業内容	自動車部品、電子機器製品等の製造ならびに販売
所在地	[本社] 岐阜県大垣市久徳町100番地 TEL 0584-91-1111 (大代表)	売上高	1,036 億円 (2016 年度連結) 661 億円 (2016 年度単独)
代表者	代表取締役社長 小川 信也	経常利益	99 億円 (2016 年度連結) 69 億円 (2016 年度単独)
資本金	70億5,896万円 (2017年9月末現在)	国内拠点	国内 8 工場
株式上場	東京証券取引所・名古屋証券取引所市場第一部上場	関係会社	国内子会社 2社 海外子会社 13社 (米国・中国・台湾・韓国・タイ・ベルギー)
単元株式数	100株		
証券コード	7250		

グローバルネットワーク

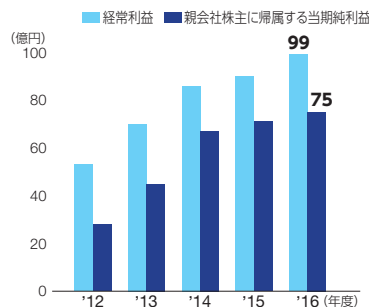


連結業績ハイライト

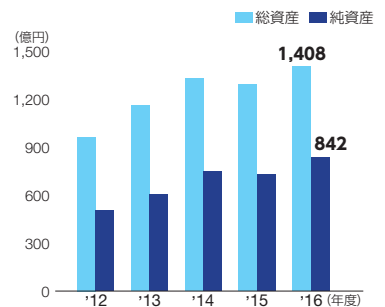
● 売上高



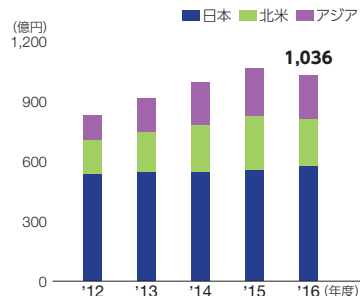
● 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



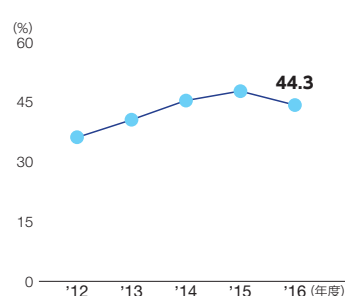
● 総資産／純資産



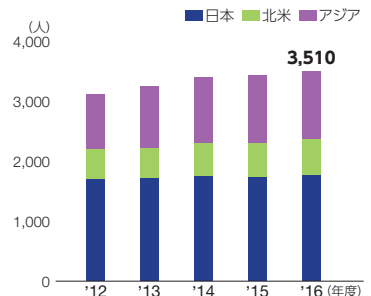
● 地域別売上高



● 海外売上高比率



● 地域別従業員数



製品紹介

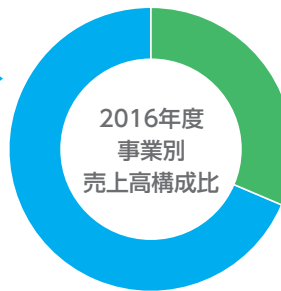
太平洋工業グループは、創業以来培った高い技術力とノウハウを活かした各種自動車関連製品を提供しています。

プレス・樹脂製品事業

68.4%

売上高 708 億円

営業利益 25 億円



バルブ製品事業

31.4%

売上高 326 億円

営業利益 61 億円

プレス・樹脂製品事業

当社はトヨタ自動車を主要顧客とする自動車用プレス・樹脂製品の総合メーカーで、自動車の骨格となる車体部品や、ヒンジ・バッテリーケース等の機能部品、オイルパン等のエンジン周辺部品、エンジンカバーやホイールキャップをはじめとする樹脂製内外装品の生産を行っています。高度加工技術の専門メーカーとして小型化、軽量化、低コスト化はもちろんのこと、お客様のニーズに応じた付加価値の高い製品・サービスの提供に努めています。

プレス製品



センターボデーピラー



ラジエーターサポートパネル



フロントサイドメンバー



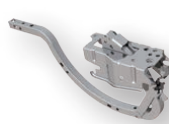
バックドアオープニング



ハイブリッドバッテリーケース



フードヒンジ



ラゲージヒンジ



オイルパン



ワンウェイクラッチホルディング

樹脂製品



エンジンカバー



ホイールキャップ



センターオーナメント



アクセルペダル



ナンバーフレーム

バルブ製品事業

創業製品であるタイヤバルブ製品は、世界No.1品質と技術力で国内トップメーカーとしての地位を確立するとともに、グローバル生産・販売体制で、国内はもとより海外でも高いシェアを確保しています。

また、カーエアコン等の空調・冷媒を制御する制御機器製品や次世代バルブとして開発したTPMS送信機は、お客様のニーズに対応し、次世代技術による更なる進化と、環境に優しい製品開発を推進しています。

タイヤバルブ製品



バルブコア



チューブレスバルブ



チューブバルブ

電子機器製品



電動リール

制御機器製品



リリーフバルブ



チャージバルブ



チェックバルブ

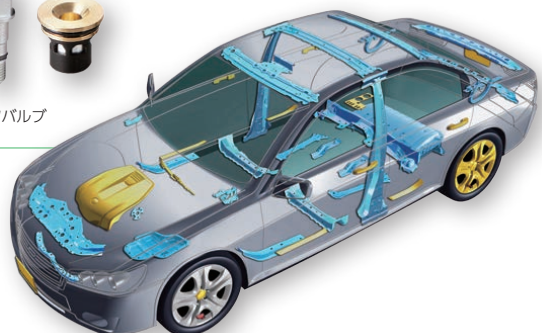
TPMS製品



送信機



一般ユーザー向け
TPMS



ものづくりは、人づくり



法相宗大本山薬師寺 管主

村上 太胤



太平洋工業株式会社
代表取締役社長

小川 信也

2016年8月8日に、法相宗大本山薬師寺(奈良市)の管主に就任されました村上太胤^{かんす}師をお招きし、社長の小川信也^{むらかみたにいん}と対談しました。日本人の「美しいところ」と「豊かな文化」を広く伝えるため、「薬師寺まほろば塾」の塾長として、全国各地で「こころのまほろば運動」を進められている村上太胤師と、「こころ」の大切さなどについて語り合いました。

人づくりは、こころづくり

日本人の「和のこころ」を再認識する大切さ

小川: 村上管主と出会ったのは、もう30年以上前になりますね。

村上: 私は岐阜県各務原市にある薬師寺の岐阜別院で生まれました。そして9歳から小僧として薬師寺に修行に行きましたが、父があまり丈夫ではなかったものですから、30代の頃に各務原に戻って奈良本山と別院を掛け持ちしながら過ごしました。その時に、各務原のある方から青年会議所に入会するよう誘われたのです。そして、大垣の青年会議所のメンバーだった小川さんにお会いしました。様々な活動をご一緒させていただきました。

小川: 管主は、青年会議所の活動で、岐阜県下のみならず多くの所を回られましたね。

村上: そうです。それまではお寺の生活しか知らなかったですからね。様々な経営人、若い人と触れ合う機会がなかったので、いろいろと勉強になりました。

小川: 1986年、当社の品質管理全社大会で「人づくりは心づくり」と言うお話をいただきました。そこでも「まほろば」の心を説かれていましたが、管主がお取り組みになられている「こころのまほろば運動」は素晴らしいですね。

村上: 「まほろば」とは、優れた「美しいところ」という意味です。日本人の「美しいところ」と「豊かな文化」を広く伝えるため、全国各地で「まほろば塾」を開催し、宗教やジャンルを超えた各界講師による「こころのまほろば運動」を進めています。

現代では、三世代一緒に暮らしている家庭が少なくなり、家族の絆が弱くなってきています。豊かさや便利さの追求も大事ですが、一方で家族と一緒に過ごす時間を積み重ねていくこと、常に「こころ」が通じていると実感できることが、日本人の「和のこころ」を育ててきたと、各地でご紹介しています。敬い慈しみ思いやる「美しいところ」、いこしえより日本人が大切にしてきた和の精神が「まほろばのこころ」です。

小川: 当社では、本社拠点のある大垣をはじめ、近隣地域に居住し、同じような社会で暮らしてきた従業員が大半です。今までは自然と「和のこころ」の中で仕事が出来ていたのかもしれませんが、でも多拠点化を進めグローバル化が進む今、従業員の育成ばかりではなく、家族と過ごす時間を考えるなど、日本人らしい「和のこころ」を大切にすることが必要とされているように思います。

村上: 「和のこころ」が、人と人の融合、価値観と価値観の

融合など、様々なものの融合を生み出します。先ほど見せていただいたエンジンカバーなどは、まさにその結晶ではないでしょうか。軽くて柔らかく、機能も充実している。実際に触れてみて本当にハイレベルな製品であると実感しました。そういう技術、日本のものづくりの凄さや日々の努力が滲み出ているように思います。

小川: いいクルマを造るためには、同業他社とも切磋琢磨することが必要です。一方、品質・コスト、そしてお客様にとって使いやすいものへと昇華していく、すり合わせ技術という日本独特のものづくりが大事です。価値観の融合というと、奈良には「神仏習合」と呼ばれる独特の考え方がありますね。この間も管主に就任された晋山式では、春日大社の宮司さんが祝辞を述べられていましたね。

村上: 薬師寺では、春日大社の宮司さんが最初に挨拶する習慣になっています。神様に仕えておられる神官の方々は、本当に精進潔斎して日々お勤めをしておられます。奈良では神仏関係なくお互いに「こころ」の中で敬愛し、尊敬する気持ちを持っています。このような敬愛や尊敬も、日本人の「和のこころ」として大切なことだと思います。

経営者に大切なのは、見えないものを感じる能力

小川: 2015年の創業85周年を機に、従業員が共有していく普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」をまとめ、「夢と挑戦」「信頼と感謝」をグローバルに共有する心構えとしました。100周年をめざすに当たって、改めて太平洋工業らしさを従業員に伝える取り組みです。

村上: 100年続く企業の経営者は、人を大切にするという「こころ」をもっていなければ、存続できなかったことと思います。先ほど工場をご案内いただきましたが、尊敬に値する現場でした。毎日繰り返し一生懸命に修練、研鑽を積み、密度が濃くなって技術が上がる。そして感性が高まり、ものに対して愛着も生まれる。そういった「生きているものづくり」を実感しました。

小川: 工場の各工程で行われるボタンタッチは、「つくり」に対しての感謝であり、ものに対する愛着です。ロボットが増えてそうしたものづくりへの感性が弱まらないようにしてはいけません。また、非常に高い緊張の中で仕事をしなくてはならない場合もありますが、そのような時には、私たち

マネジメント側で「こころ」のゆとりを感じて気持ちのこもった仕事ができる工夫をしなくてはならないと思います。これは永遠の課題です。

村上：「経営」という言葉は本来宗教用語です。「経」という字は織物の中にある隠れた縦糸を指します。経営者は、このような見えないものを感じる能力が必要です。親を敬う、先輩を敬う、そういう縦の見えないものを大切にする「こころ」が大事だと思います。これは日々の繰り返しの中で、自然に身についていくものです。

小川：縦糸が目に見えない「こころ」のつながりだとすれば、横糸は、環境変化やお客様のニーズに合わせて絵柄を変えていくためのものですね。その絵柄を描けるかどうかは経営者の能力です。これが時代を超えた経営をやっていくことですね。

村上：太平洋工業の「業」は、仏教で使われる「ゴウ」、身体と口と心で行う行為を指します。経営者は24時間、会社の営みを身体と口と心で常に考え行動するものです。一方で従業員の方は、自分のつくる部品がクルマのどこに使われているか、全体を把握しながらも、技術や知識だけではなく、智慧が必要になってくると思います。先ほど、ものと人が一体となっているのを目の当たりにし、技術だけではなく、「こころ」が発揮されているんだと感心しました。

「縁」つながりを大切にする ダイバーシティ

小川：トヨタ生産方式では、「後工程はお客様」という言葉があります。これは、単にプレス工程から溶接工程へと部品を手渡していくことではなく、新車をお待ちのお客様に、良品をお届けするという想いを持って、仕事をしていくことと捉えています。太平洋工業の部品がついているクルマに皆さん乗っていただけるということが、私たちのものづくりに対する喜びにつながっています。こうした想いを従業員が自覚することで、より良い技術開発・ものづくりが生まれるのだと思います。

村上：「縁」という言葉があります。インドでは寝ている牛を見ると「これはお婆さんの生まれ変わりだな」「あれはお爺さんの生まれ変わりかな」と、そんな風にみているのです。生き物全て、動物も含めてみんながつながっているという「こころ」があるのです。見えないけれども見える、というより感じる。そういうことが「まほろば」であり、日本人が大切にしてきた「こころ」です。「縁」も同じ意味で、自分以外の人を大切にするということが、日本人の持っていた「こころ」ではないかなと思います。

小川：自分以外の人を大切にするのは、ダイバーシティそのものですね。女性や高齢者、障がい者、外国人の活用など、多様な人財の活用を進めていくことは、これからの



縁やつながり、 人を大切にする 「こころ」が必要

法相宗大本山薬師寺 管主
村上太胤(むらかみ たいいん) 師

プロフィール

1947年3月1日生まれ、岐阜県各務原市出身。

薬師寺まほろば塾塾長

1956年3月27日薬師寺に入山し、橋本凝胤師に師事。

1969年龍谷大学文学部仏教学科卒業。1977年薬師寺執事就任、1996年薬師寺岐阜別院住職就任（現職）。その後、1998年薬師寺副執事長、2003年執事長、2007年法相宗宗務長、2012年副住職を経て、2016年法相宗大本山薬師寺管主（現職）、薬師寺まほろば塾塾長（現職）へ。

主な著書に「佛教のエッセンス『般若心経』」「かたよらない こだわらない とらわれない 般若心経の力」「仏法の種まき」等がある。

企業の成長に関わる点で大変重要です。グローバル化が進み、多様な価値観を持った方々と一緒に仕事をすることがますます増えてきています。多様性を許容し、お互いが思いやりの「こころ」を持って、人と人とのつながりや縁を大切に作る価値観を根付かせていくことが重要だと思います。

村上：我々僧侶の世界では、70歳は高齢者ではありません。私も昨年ようやく薬師寺の住職になったくらいですからね。文化、宗教や芸術では、本当に全身全霊で打ち込んでいける体力、気力、技術が充実していて、それを持ち続けることが大切です。仏教では、自分のことだけではなく人のために働く、利他行が一番中心となります。これができるようになって、ようやく一人前として認められるようになるのです。

CSRは「自他合一」の精神で

小川：昨今注目されているCSRでも、社会のためになることが大切だと思います。企業として、単に儲ければいいというわけではなく、社会に適合しているか、社会の一員であるか、みんなのためになっているか、そういったことが求められています。ステークホルダーから信頼され、期待される企業となるよう、会社を良くしたいという経営の「想い」があるのです。活動メニューや体制だけ考えて実施する、義務や責任のようなものではありません。

村上：「自他合一」ですね。これは、相手とひとつになるという価値観です。社会のために会社の皆さんがやっておられることが、最終的に自分自身の喜びになり、つながりになっていくということです。そういう感謝の気持ちがあれば、社会のこと、毎日の仕事をしながら、その活動を通じて自身の喜びが感じられる世界がいっぱい出てきます。これは、融通無碍^{むづうむげ}につながっていく、日本人の「こころ」そのものなのです。

小川：「里山の森づくり」など、CSR活動に参加した従業員からは、「参加してよかった」、「家族と一緒に過ごせる時間が一つできた」などといった声が寄せられるのです。そうした活動が、自分の仕事に戻った時に、「やりがいをもってチャレンジした」、「新しい開発ができた」、「早く帰って家族と話そう」というような活力を生む原動力になっていると感じます。そうした従業員の思いや活動を、私たちがきちんと評価していくことで地域との融合もできていきます。

村上：そういう損得を超えたようなことで、みんなが一緒になって集うことが大事です。それで「こころ」がつながりますからね。無駄なものに投資する土壌がないと、文化は生まれてきません。やはり殿様がいた地域は、そのような集いを通じて固有の文化が育まれています。

小川：会社としては、株価や業績で評価されてしまうかもし

れませんが、もっと視点を高くすると、100年企業に向けてあるべき姿をどう描くかという目に見えない縦糸、「こころ」を強くしていくためのプロセスが大切です。愛着をもって、「こころ」を大切にしながら進むことで、結果として品質・コストなどの評価につながっていくのだと思います。一歩ずつでも歯を食いしばって、目は笑いながら前に行きたいです。

村上：薬師寺では毎年お正月に「開運招福」と揮毫するのですが、「運」という字は運ぶということですから、じっとしていたのでは運は開けてこないのです。ものづくりというのも同じで、身体も口も心も動かしていく「業」から始まり、開運につなげていかななくてはならないですね。

小川：開運につなげていくためには、夢を描いて挑戦し、自ら未来を切り開いていく必要がありますね。100年企業に向けて、従業員が「こころ」をひとつにして、想いを込めて一生懸命活動していけば、きっと「開運招福」が訪れるでしょう。今日は本当にありがとうございました。

CSRは、良い会社になりたいという経営の想い



社会課題に答える 製品開発

当社は自動車部品メーカーとして、環境負荷を軽減し、サステナブルな社会の構築に貢献したいという考えのもと、低炭素社会の実現に寄与する製品や、より高効率な加工方法・製造工程を研究・開発しています。また、歩行者・運転者に対する安全機能の向上も重要な課題として認識し、社会のニーズに応えられるものづくりを推進しています。

安全性と燃費向上を両立した軽量化技術 超ハイテン材を用いた冷間プレス工法の開発

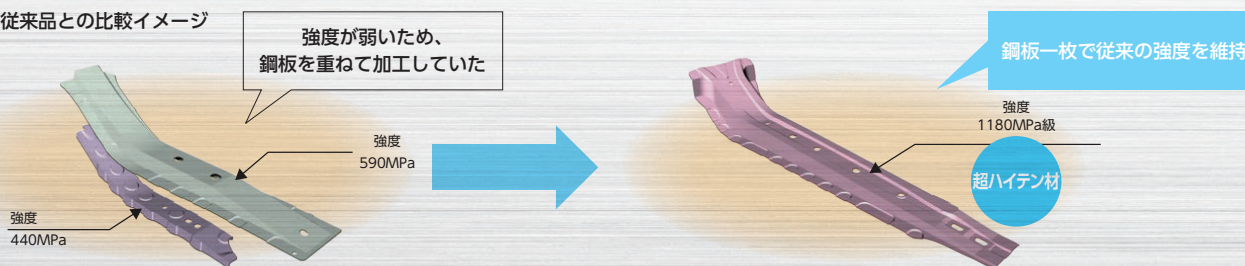
車に乗った時の足元付近に位置する骨格部品である、キックリフォース(以後キックR/F)は、前方衝突からキャビンを守る役割を果たします。命を守る部品として、部品点数を増やし、板を厚くすることで強度を保っていました。

しかし近年は、自動車の環境配慮やCO₂排出量削減のための燃費向上、安全性の向上が求められています。そこで、軽量化と強度維持・向上を両立できる超ハイテン材で、キックR/Fを成形する冷間プレス工法を開発しました。CAE解析を繰り返し、必要な精度を確保するために、加工中の材料の動きや応力を金型で制御しています。これにより、従来ホットスタンプ^(※)でしかできなかった形状の冷間プレス加工が実現し、鋼板を加熱する電力の削減にも繋がっています。

本部品は、新型カムリ初採用に向け工法開発してきたことが評価され、2017年7月にトヨタ自動車より「新型カムリ・プロジェクト表彰(CE特別賞)」を受賞することができました。

※ 鋼板を加熱した後、成形しながら急冷をして焼入れする工法。冷間プレスに比べ、形状凍結性に優れ、寸法精度確保が容易。

■ 従来品との比較イメージ



従来比 質量50%減 コスト30%減

開発者の声

プレス樹脂事業部 プレス技術部

栗野 幸生

のびにくくひずみやすい性質を持つ超ハイテン材で、形状が複雑なキックR/Fを成形するのは難しい課題でした。現在、超ハイテン材の工法開発時はCAE解析により、どの部分にどの様な力が作用しているのかを可視化し、これまで各々の経験に基づく「勘・コツ」に頼っていた部分のデータ化・数値化を行っています。

それらの数値から課題の真因を解析し、導き出した最適な工法を金型に織り込むことにより、精度の良い製品を短期間で造ることをめざしています。

今後も、低炭素社会の実現に寄与できるよう、新たな工法の開発に取り組んでいきたいと思っています。



開発チーム



新型カムリ・プロジェクト表彰



当社の超ハイテン材プレス製品、
オールウレタンエンジンカバー等が
搭載されたトヨタ自動車の新型カムリ

新しい発想で日本初を実現 オールウレタンエンジンカバーの開発



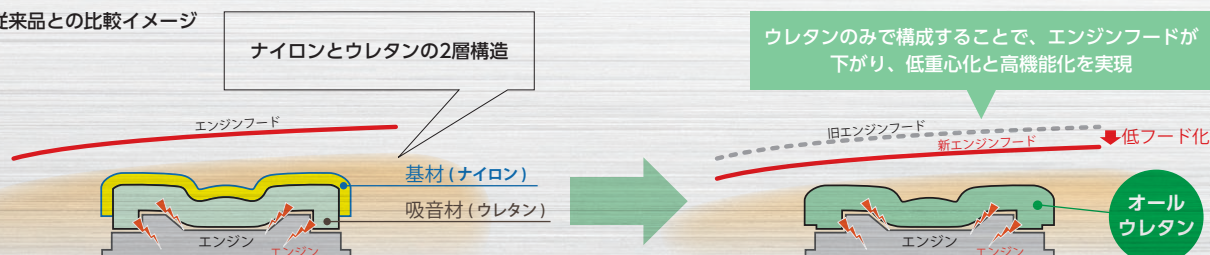
自動車のエンジン上部に搭載される樹脂製エンジンカバーは、防音性能とデザイン性を向上させる目的で、最近では多くの車両に標準搭載されています。

世界的課題であるCO₂排出量削減のため、各種自動車部品の軽量化が求められる中、当社もエンジンカバーの基材の薄肉化や基材発泡成形などで改良を進めてきましたが、これ以上の軽量化は従来の工法では限界がありました。

従来のエンジンカバーは樹脂製の基材と防音性能向上のためのウレタンで構成されていましたが、今回開発したエンジンカバーは、樹脂製基材よりも軽いウレタンのみで構成されています。これにより、デザイン性や強度などのエンジンカバーとしての性能を確保しつつ、更なる軽量化及び防音性能の向上を実現しています。

また、従来品より柔軟性が高いため、対人衝突事故発生時に人体への衝撃を和らげる効果もあり、安全性能の向上にも役立っています。

■ 従来品との比較イメージ



従来比 **質量20%減 コスト20%減**

開発者の声

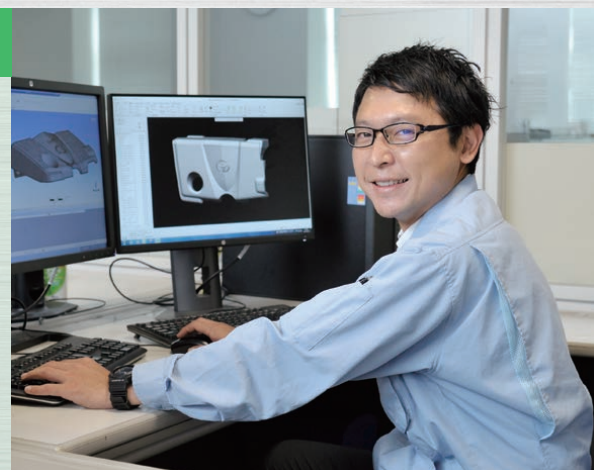
プレス樹脂事業部 樹脂技術部

佐藤 寛之

オールウレタンカバーは、2011年頃より開発がスタートし、2016年10月にトヨタ自動車が北米で生産する「シエナ」に採用され、量産を開始しました。

開発時には、ウレタンのみでエンジンカバーの機能とデザイン性、組付性を満足いくものにするまで非常に苦労しました。設計チームは専用材料の開発、生産技術チームは金型温度コントロール工程の開発など、オール樹脂技術部として開発を進めてきた結果、課題を克服できました。

今後は、環境への貢献とともに、防音・防振技術を軸にして開発を推進する計画をしています。本製品で培った技術を今後の開発にも生かして、更なる進化を続けていきたいと思っています。



グローバルに広がる 太平洋工業



太平洋工業グループでは、社会とお客様のニーズにお応えするとともに、中期経営計画の達成に向け、設備投資や生産体制の拡充を行っています。事業編では、各国拠点における直近の事業活動についてご報告します。



▲ 太平洋自動車部品科技(常熟)有限公司 開業式



▲ 国産化推進賞受賞

中国 TPMS法制化に向け 生産体制を拡充

太平洋自動車部品科技(常熟)有限公司

2016年9月に開業式を開催し、現在は、日本・米国に次ぐTPMS送信機生産の第三の拠点として、年間350万本の生産体制を整えています。

また、2017年3月には、TPMSの現地生産化におけるコスト削減と日本と同等の品質・納期が高く評価され、广汽豊田汽車の仕入先総会において「国産化推進賞」を受賞しました。

China

タイでプレス事業を開始

タイ

Thailand

Pacific Auto Parts (Thailand) Co., Ltd.

自動車用プレス部品の軽量化や現調化のニーズにお応えするため、タイにおける第二の生産拠点として、Pacific Auto Parts (Thailand) Co., Ltd.を設立し、2017年9月、新工場を建設しました。ASEANでのプレス・樹脂事業の更なる拡充を見据え、今後、順次生産設備を導入し、事業基盤の強化を図っていきます。



Pacific Auto Parts (Thailand) Co., Ltd. ▶

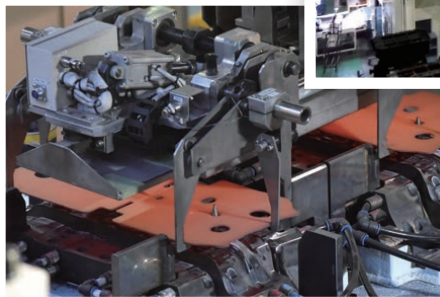
超ハイテン材採用拡大 と量産体制確立

トヨタ自動車が進める次世代プラットフォーム「Toyota New Global Architecture」適用車種に超ハイテン材が採用され、さらなる生産体制の拡充が求められています。当社は、高強度のプレス製品を生産するため、超ハイテン材の冷間プレスと、ホットスタンプによる製品開発を推進しており、2016年11月には東大垣工場にてホットスタンプラインの稼働を開始しました。

また、鍛圧プレス事業では、養老工場の増築を行い、生産能力の増強を図っています。



▲ 東大垣工場3,000 t プレス設備



◀ ホットスタンプ製品の製造工程

プレス製品の 生産拡大

Pacific Manufacturing Ohio, Inc.

超ハイテン材のプレス部品生産体制を拡充するため、プレス工場の増築やプレス機の増設を行いました。2017年度からは、鍛圧プレス事業を開始し、生産拡大とお客様の新規獲得を進めています。

Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.

2016年5月、グランドオープニングセレモニーを開催し、本格稼働を開始しました。北米市場向けの骨格部品やエンジン周辺部品を中心に生産しており、2017年度よりホットスタンプ設備の導入を予定しています。

米 USA



▲ テネシー拠点でプレス機が稼働を開始



▲ アルミダイカスト製品



アルミダイカスト製品 さらなる増産へ

太平洋エアコントロール工業株式会社

カーエアコン用コンプレッサー部品の一貫生産体制を構築し、現在はエンジン補機部品や電動コンプレッサー部品の生産能力増強に向けて新工場を建設しています。

2017年2月には、納入品質の優秀さが認められ韓国の自動車用エアコンシステムメーカーであるHanonSystemより、「品質革新優秀賞」を受賞しました。

韓国 Korea

トピックス

地域住民雇用で地域発展

2017年5月、韓国の行政区「忠清南道」と太平洋エアコントロール工業株式会社は、外国人投資促進法についての覚書に調印し、地域住民の雇用を積極的に行い、地域発展に向けて誠実に努力することに合意しました。

社会編

太平洋工業グループでは、事業活動の推進はもちろんのこと、各地域でステークホルダーとの良好な関係を築くことを重視しています。社会編では、海外拠点の社会との繋がりについてご報告します。

中国

China

従業員同士の
チームワーク向上

長沙太平洋半谷汽車部件有限公司

「働きがいがあり、明るく、誇りがもてる会社」づくりをめざして、従業員の士気とチームワークを高めるための各種イベントを行っています。

チームに分かれてボートを漕ぐ競争や、メンバー全員が5mの壁を道具を使わずに登りきるチャレンジを行うなど、チームワークを必要とされる課題に挑戦するアウトドアイベントに多くの従業員が参加しました。



チームワーク向上のためのアウトドアイベントに参加



従業員同士が協力してボートを漕ぐ競争

とても暑かったけど、植えた木が成長して地球温暖化防止に役立つといいと思います。

植樹活動
参加者の声

とても楽しかったし、木がどうやって大きくなるか勉強になりました。

タイ

Thailand

マングローブの苗
400本を植樹

Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd.

2017年7月に従業員とその家族ら110名が参加し、バンコク郊外海浜の自然保護地区にマングローブの苗400本を植樹しました。

水生生物のすみかとして、豊かな生態系を育むマングローブの森は、近年急速に減少しています。自然環境の保護と、その意識啓発のため、参加者はお揃いのTシャツを着用し、植樹を行いました。

従業員向け
交流イベントの開催

毎年12月に従業員向けにスポーツ大会と昼食会を兼ねた「ニューイヤーパーティ」を開催しています。サッカーやポートボールなどで汗を流し、みんなで一緒に昼食をとりながら抽選会などの催しを楽しむイベントです。バルブ製品と樹脂製品を生産するPIT社では、こうした機会に事業部間の親睦を深めています。



マングローブの植樹



従業員向けイベントでの昼食の様子

トピックス

グローバルな環境保全活動の展開

太平洋工業では2008年度から「環境」をテーマに従業員の子供たちから絵画を募集してきました。2015年度からはグループ全社に募集対象を広げ、海外の子供たちが環境保全への興味を持つ機会の創出を図っています。2016年度は、日本、台湾、タイ、韓国、米国、中国、ベルギーの子供たちから約90枚の環境絵画が集まりました。



従業員の家族とのコミュニケーション

Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.

2016年5月のグランドオープニングセレモニーに先立ち、家族を招いたオープンハウスを開催し、参加者は昼食をとりながらゲーム等を楽しんだほか、職場見学も実施し、会社への理解促進を図りました。

Pacific Manufacturing Ohio, Inc.

2016年7月にオープンハウスを開催し、従業員とその家族ら約400名が催し物やレクリエーション、食事を楽しみ、家族団らんの時間を過ごしました。また、「Red Nose」と呼ばれる、赤い鼻を購入し(売上げは寄付)、それをつけることでお互いに笑顔を贈り合うチャリティーイベントや、近隣の小学校において登校してくる生徒を笑顔で迎えるボランティアなどを実施しています。



オープンハウス (オハイオ拠点)



チャリティーイベント「RedNose」(オハイオ拠点)

USA

地域社会との繋がり

太平洋バルブ工業株式会社

3ヶ月に1回、地域でのボランティア活動を行っています。老人施設の除草作業や土地の整備、児童施設の清掃など、地域のニーズに応じて活動内容を選定しています。

また、2016年8月には岐阜県大垣市にある工業高校からの海外インターンシップ生を受入れ、バルブの製造工程の案内や、海外での働き方について説明しました。

太平洋エアコントロール工業株式会社

近隣の村と姉妹提携を結び、その村の農産物の購入、寄付、村民の採用などの支援を行うほか、村の農業祭に参加し村民との親睦を図っています。また、生活環境が苦しい地元地域の人のために、お米を寄付する活動も行っています。



大垣市の高校生
インターンシップ
受入れ



地域へのお米の寄付



姉妹提携を結ぶ
村への寄付

Korea

マネジメント

■ 取締役・監査役



1	代表取締役社長	小川 信也
2	取締役副社長	石塚 隆行
3	取締役専務執行役員	鈴木 克也
4	取締役専務執行役員	小川 哲史
5	取締役常務執行役員	粥川 久
6	社外取締役	黒川 博 ※
7	社外取締役	本島 修 ※
8	監査役	永田 博
9	監査役	藤井 康彦
10	社外監査役	高橋 勝弘 ※
11	社外監査役	榎原 章夫 ※

※金融商品取引所が定める独立役員

■ 「PACIFIC VALUES」

2015年8月、創業85周年を機に、「創業の精神」や「社是」など、当社の歴史や、創業者・経営トップら先達の労苦と想いを中心に、太平洋工業グループ社員が共有していく普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」をまとめました。創業の原点に立ち返り、グループ社員が共有する「心構え」を、「夢と挑戦」「信頼と感謝」という言葉で表しました。

長期ビジョン「PACIFIC GLOBAL VISION 2020」達成に向け、中期経営計画を推進する中、日常活動における精神的支柱、判断・実行の拠り所としています。

私たちの心構え



「PACIFIC VALUES」の位置付け

PACIFIC VALUES



価値観体系

創業の精神

創業者が大切にしたい想い。

社是

創業時の想いを規律・姿勢としてまとめたもの。

私たちの心構え

社是を实践する上で、太平洋工業グループの全社員が共有していく心構え。



理念体系

企業理念

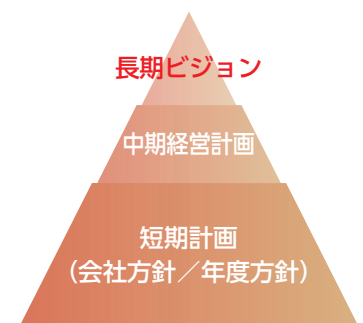
社是を基本として、経営の基本姿勢と使命をまとめたもの。

経営理念

企業理念をベースにした経営トップの想い。

行動指針/技術開発指針

判断・行動する際の基本方針。



方針体系

長期ビジョン

10年後のありたい姿。

中期経営計画

ビジョンを実現するためのアクションプラン。

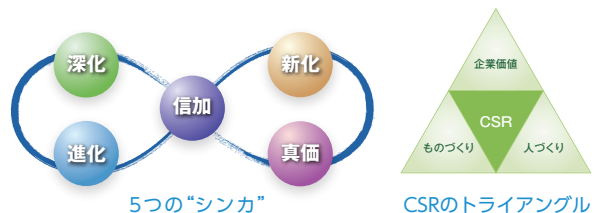
短期計画

中期経営計画を踏まえた年度計画。

■ 長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」

自動車産業の急激かつグローバルな構造転換、地球規模の環境問題・エネルギー問題、企業の社会的責任、グローバル化・技術革新など、我々を取り巻く環境は、予想をはるかに超えるスピードで大きく変化しています。こうした環境変化を大きなチャンスと捉え、創業80周年の節目である2010年に、創業100周年に向けての一里塚として、10年先を見据えた長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」を策定し、私達グループの夢とミッションを明確にしました。

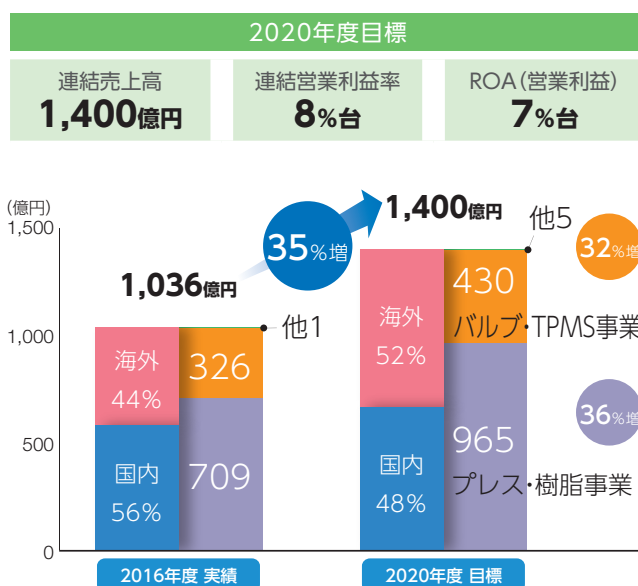
長期ビジョンは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、「5つの“シンカ”」で事業構造を革新し、「融合経営」による企業価値の向上をめざしています。



■ 中期経営計画「OCEAN-20」

長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」の実現に向けた具体的アクションプラン「OCEAN-18」は2017年度で目標達成の目処をつけ、ローリングプランとして新中期経営計画「OCEAN-20」を策定しました。「OCEAN-20」では、引き続き「トップクラスのGLOCALな部品メーカー」をめざし、「技術と海外」「ものづくりは人づくり」「CSRと環境保全」をキーワードに、投資の成果を刈り取りつつ、将来の飛躍に向けた成長基盤を構築します。また、次世代モビリティを見据えた新技術・新工法の開発、海外拠点の拡充・自立化の推進、環境・安全・品質・生産性の向上、そして、人材育成とともに、競争力のある原価を実現してまいります。

社会から信頼され、期待される企業であり続けるため、ステークホルダーの皆様との絆を深める活動に積極的に取り組み、未来に向けた価値の創造と企業経営の質の向上を実現してまいります。



トップクラスのGLOCALな部品メーカーをめざす

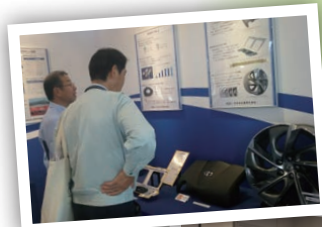


TPS…Toyota Production System CSR…Corporate Social Responsibility

CSRマネジメント

当社グループは、社会から信頼され期待される健全な事業活動こそがCSRの基礎であると認識し、各国・各地域のあらゆる事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献できる「真のグローバル企業」をめざしています。

当社グループの事業活動は、お客様をはじめ、株主様、お取引先様、地域社会、従業員など、当社を取り巻く多様なステークホルダーの皆様との関わりの中で進められています。企業価値を高め、CSRを実践していくためには、ステークホルダーの皆様とオープンで公正なコミュニケーションを図り、長期的観点でWin-Winの関係を構築することが重要であると考えています。



展示会でのお客様
との交流



製品検討会

お客様

P25

CSR方針

「お客様第一」の精神のもと、お客様から信頼され、満足していただける、安全で高品質な環境に優しい製品・サービスの提供に努めます。

コミュニケーション方法

顧客満足度調査、国内外での技術展示会・技術プレゼン、イベントへの参加、WEBサイトでの情報開示

解決すべき
社会課題

- ➡ 交通事故の削減
- ➡ 品質問題を発生させない体制の構築

お取引先様

P26

グローバル会向け
AED講習



CSR方針

お取引先様を尊重し、対等・公平な立場で強固なパートナーシップを築き、相互信頼に基づく共存共栄をめざします。

コミュニケーション方法

会社方針説明会、グローバル会活動、仕入先表彰、倫理・苦情相談窓口、独立相談窓口

解決すべき
社会課題

- ➡ 災害時のレジリエンスの向上
- ➡ サプライチェーンも含めた人権保護の取り組み

CSR方針

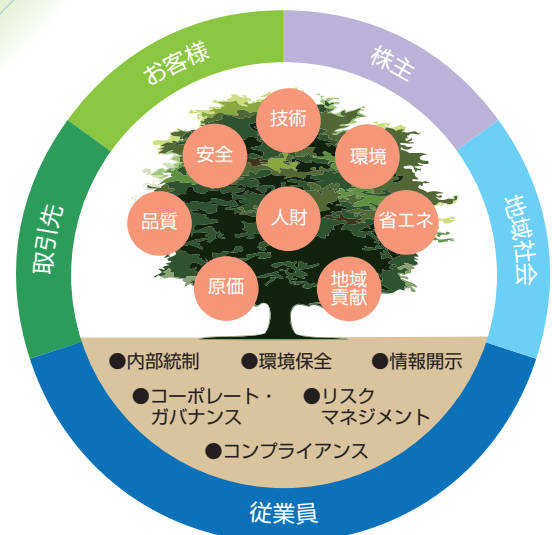
人間尊重を基本に、心身ともに健康で安心して働ける職場づくりと、従業員が働きがいと誇りを持ち、創造力・チャレンジ精神を発揮できる環境・しくみづくりを推進します。

コミュニケーション方法

労使協議会、教育研修、倫理・苦情相談窓口、独立相談窓口、社内報(毎月発行)、福利厚生イベント、各種表彰制度、健康推進啓発活動

解決すべき
社会課題

- ➡ 安全な職場づくり
- ➡ 少子高齢化による労働者不足解消



様々なリスクや脅威の中で、ステークホルダーの皆様から信頼・期待される企業であり続けるために、コンプライアンスやリスクマネジメント等をすべての事業活動の根幹と位置づけています。



運動習慣化キャンペーン



特定保健指導

従業員

P27



東京でのIR活動



株主懇談会



インベスターズガイド2017

株主様

P24

CSR方針

株主の皆様からの信頼と期待に応えるため、双方向コミュニケーションを基本とし、常に長期的視点に立ち、企業価値の向上に努めます。

コミュニケーション方法

株主総会、個人・機関投資家説明会、決算説明会、IRイベントへの参加、個別ミーティング、インベスターズガイドの発行（日本語版・英語版）、WEBサイトでの情報開示

解決すべき
社会課題

- ➡ 長期の投資市場の醸成
- ➡ 社会課題解決のための投資の推進

CSR方針

【環境】

環境に優しい製品・技術の開発を強化するとともに、全ての工程において環境保全と環境負荷削減に配慮したもののづくりを推進します。

【社会】

国内外の法令及び社会的規範を遵守し、文化や慣習を尊重するとともに、国際社会への貢献と、地域発展の推進に努めます。

【社会貢献】

地域社会との密接な連携と協調を図り、様々な社会貢献活動を積極的に実施し、「良き企業市民」としての役割を果たします。

コミュニケーション方法

リスクコミュニケーション、工場見学、地元自治会との交流、地域貢献活動、スポーツ振興、教育機関での出張教育

解決すべき
社会課題

- ➡ 地域コミュニティの活性化
- ➡ 気候変動への対応
- ➡ 廃棄物の削減

P11,31

P24,29

P15,29



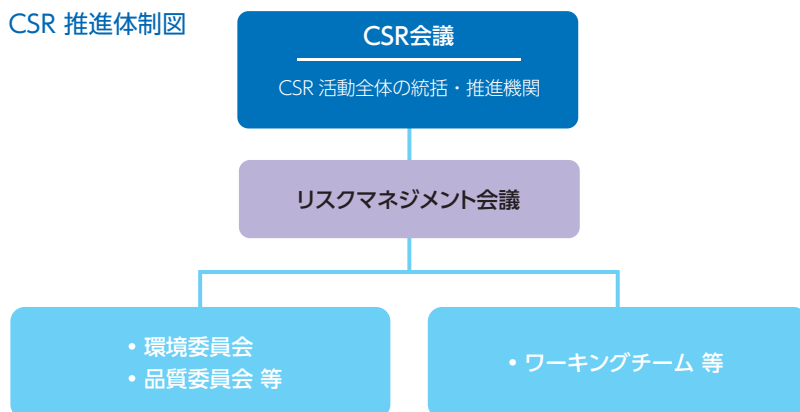
近隣小学校の工場見学

地域社会



美濃工場
地域懇談会

CSR 推進体制図



当社では、CSR活動全体の統括・推進機関として社長が議長を務めるCSR会議、リスクマネジメント会議のもと、環境委員会や品質委員会、各種ワーキングチーム等の組織において、企業活動全般について法律面や企業倫理面からのチェックを行っています。中長期の重要なリスクの洗い出し、分析、評価、その対策立案、実施により、リスクの低減を図っています。

CSR活動の実績

2016年度に当社グループが取り組んだCSR活動の成果について、ステークホルダー別にご報告します。

(一部、2017年度の成果もご紹介しています)

基盤となるCSR



リスクマネジメント報告会



「PACIFIC VALUES」について語る会

- 新中期経営計画「OCEAN-20」策定に向けた意見交換会の実施
- コーポレートガバナンス・コード全73項目遵守に向けた取り組み
- eラーニングを利用したコンプライアンス教育実施
(内部統制・情報セキュリティ他)
- 機密管理規定による、機密文書・情報の管理強化
- 社員向けコンプライアンス便りを毎月発行、
コンプライアンスメールマガジンを月2回配信
- 各工場におけるBCP図上訓練実施
- グループ共通の価値観「PACIFIC VALUES」の周知・定着の取り組み
(「語る会」実施、方針手帳での展開・社内報での継続的情報発信)
- リスクマネジメント報告会の開催

今後の課題

海外事業体も含めたグループ全体でCSR活動を強化する。また、新中期経営計画「OCEAN-20」の策定と「PACIFIC VALUES」の継続的な周知・定着活動を行う。

お客様



技術展示会



トヨタ自動車
「新型プリウスPHVプロジェクト表彰」

- 国内での技術展示会、海外での技術プレゼンを実施
(技術展示会：国内3回)
- 東大垣工場でホットスタンプラインが稼働開始
- 養老工場にて鍛圧プレス工場の拡張工事を開始
- 2016年度設備投資額 166億円
- 韓国PAC社がHanonSystemより「品質革新優秀賞」を受賞
- 中国PTC社が広汽豊田汽車より「国産化推進賞」を受賞
- 「4点式ポップアップフードシステム」の開発で
トヨタ自動車より「新型レクサスLCプロジェクト表彰」を受賞
- 「ワンウェイクラッチホールディング」の成形開発で
トヨタ自動車より「新型プリウスPHVプロジェクト表彰」を受賞

今後の課題

次世代車両構造を見据えた軽量化技術(新材料、新技術、新工法、新製品開発)の加速化と、IoT、AI、コネクテッドカーを照準とした次世代事業につながる開発テーマの具現化に取り組む。

お取引先様



主要仕入先様への
会社方針説明会

- CSR調達の推進
- JAMA/JAPIA統一データシート採用による成分情報調査と、
フォロー面談の実施
- 主要仕入先様への会社方針説明会や優良仕入先表彰による
パートナーシップ強化
- 主要仕入先様へのCSR・コンプライアンス教育の実施、
災害対策底上げとBCP対策支援

今後の課題

環境負荷削減に貢献できる製品・技術を優先的に採用し、
またその旨をグリーン調達ガイドラインに織り込み、明示する。



2016年度の主な取り組みと2017年度の目標の一覧はWEBサイトをご覧ください。
<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/result/>

従業員



韓国PAC登山イベント



福利厚生イベントでの子供向け催し

- 新「はつらつ職場づくり宣言」を岐阜労働局に登録
- 女性の育児休業取得率 9年連続100% (2016年度は9名が取得)
- 障がい者雇用促進 (雇用率2.03%で4年連続法定雇用率を達成)
- 管理・監督職向けメンタルヘルス・ラインケア教育を実施 (4回開催、計284名出席)
- 社内報へ「職場ハラスメント講座」の継続的掲載
- 国内外の拠点で従業員向けの福利厚生イベントやスポーツ大会などを実施

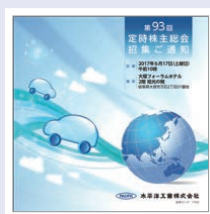
今後の課題

働き方改革、障がい者雇用、高齢者雇用、女性活躍推進など雇用環境変化に応じて、従業員が働きやすい職場環境づくりを行う。

株主様



株主懇談会



招集通知

- 年間配当28円 (中間13円、期末15円) 昨年比2円増配
- インベスターズガイド (日本語版・英語版) 発行
- 株主総会の土曜日開催、株主懇談会実施
- 招集通知の発送日早期化、発送前のホームページ開示、英文化 (ホームページ開示)
- 名証IRエキスポへの出展
- 日本格付研究所 (JCR) 評価が「BBB+/ポジティブ」から「A-/安定的」に格上げ
- 決算説明会 (年2回)、個別IR実施 (計74件)

今後の課題

株主様との対話を重視したIR活動とESG情報開示を更に推進し、株主様からの期待に応える持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた取り組みを実施する。

地域社会

社員有志がFC岐阜後援会へ加入



©Kaz Photography/FC GIFU

- 地域の学校、自治体等に対する寄付、教育・文化・スポーツ支援
- サッカーJ2リーグ「FC岐阜」のオフィシャルパートナー支援
- 次世代育成支援 (科学教室、工場見学、産官学連携、インターンシップ、環境講座等)
- 工場周辺・地域のボランティア清掃
- 地域の方を会社に招き、地域懇談会や見学会を開催

今後の課題

海外事業体も含め、グループ全体で次世代育成に繋がる教育支援や、スポーツ・文化振興に寄与し、地域の活性化と信頼関係の構築をめざす。

環境



タイでのマングローブ植樹



九州工場太陽光パネル

- 「太平洋里山の森」活動推進 2回開催、参加者合計450名 (植樹、しいたけの菌打ち、間伐材を利用したワークショップ、ピオトープ整備)
- 環境目的・目標達成への取り組み
- CO₂排出量・VOC大気排出量・廃棄物削減等に向けた製品・工法・技術の開発28件 (目標の25件を達成)
- 太陽光発電設備の運用 (使用電力全体の5%を発電)
- 西大垣工場で重油・LPガスを都市ガス化し、CO₂排出量を年間約810t削減
- 国内外の拠点で環境ポスターを募集 (応募総数：90件)
- タイPIT社がマングローブ植樹活動を実施

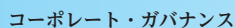
今後の課題

継続的に環境保全・生物多様性の取り組みを推進するとともに、CO₂削減に寄与する製品の開発と廃棄物の削減をめざす。



ガバナンス

太平洋工業グループは、経営の効率性と企業活動の公正性や透明性を維持・向上させるためのマネジメント体制を構築し、CSR経営の継続的な推進を図っています。



<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/governance/>

リスクマネジメント

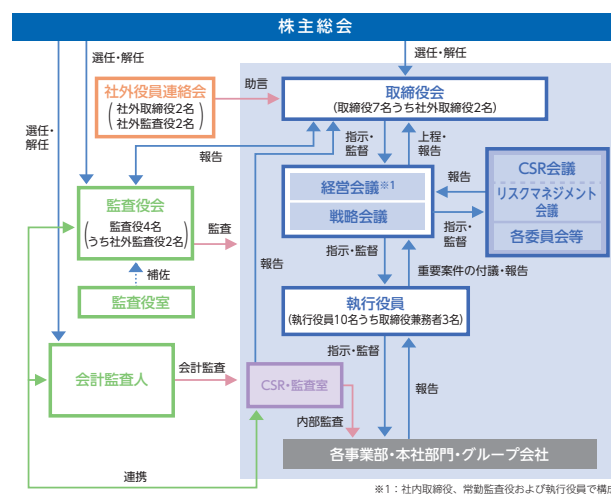
<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/risk/>

コンプライアンス

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/compliance/>

当社は、コーポレートガバナンス・コード全73項目の遵守を基本方針に据え、ステークホルダーとの信頼関係を築きながら企業の社会的責任を果たしていくことが企業価値の向上に繋がると考えています。本コード適用初年度には、インターネットによる議決権行使、経営陣から独立した社外役員による「独立相談窓口」の設置、社外取締役と社外監査役との定期連絡会の開催等を実施しました。今後もガバナンスの更なる強化を目指し、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みを継続していきます。

監査体制としては、監査役制度を採用し、社外監査役2名を含めた監査役4名が、内部監査部門と連携し業務の適正を確保しています。



当社は、「内部統制システムの基本方針」のもと、国内外の事業体を含むグループ全体で内部統制システムの充実・強化を図っています。財務報告の適正性確保のための体制、コンプライアンス体制を含む内部統制システムの構築・運用状況について、各実施部署からの報告内容の検証または実地確認を行い、より適正かつ効率的な体制の構築に努めています。

この結果、財務報告に関わる内部統制は有効であると判断し、2017年3月31日を基準日とした内部統制報告書において、監査法人からも適正である旨の無限定適正意見を得ています。

リスクマネジメント報告会

当社グループは、事業活動を行う上で重要な影響を及ぼすリスクを把握し、適切な対策を講じるため、「リスクマネジメント規定」及び「リスクマネジメント実施要領」を策定し、リスクマネジメント体制を構築しています。全社の各部門が、リスクの抽出・分析・評価を行い、リスク低減に向けた活動を計画的に実施しています。活動の進捗状況については、「リスクマネジメント会議」や「リスクマネジメント報告会」で随時、確認・フォローし、全社的な取り組みとして、リスク発生の未然防止や低減、リスク管理レベルの継続的な向上・改善を図っています。

また、国内・海外の子会社においても、各社の状況や事業形態に沿った活動を実施し、リスクマネジメントをグローバルに推進しています。

近年、サイバー攻撃の高度化・巧妙化など、企業を取り巻く情報セキュリティの状況は厳しさを増しています。当社グループは従来からその重要性を認識し、「IT規定」に基づいて、さまざまな取り組みを推進しています。取り組みは戦略会議で確認し、

システム対策、ルールを継続的に改善するとともに、従業員一人ひとりへの徹底を図るため、eラーニング方式による教育・啓発等を実施し、意識の向上を図っています。また、国内外の子会社を含めて、運用確認フォローを行っています。

BCMの推進

当社では、自然災害の発生や感染症の拡大など、緊急事態に遭遇した場合、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、事業の継続と早期復旧を可能とするため、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続の手法・手段などを事前に取り決めておく対策を進めています。

年1回の全社一斉防災訓練や、各工場での図上訓練などにより、BCP(事業継続計画)の有効性の検証(BCM)を行い、防災対策の継続的改善に取り組んでいます。

また、毎月11日を「太平洋工業防災の日」として、従業員の防災意識を向上させるための取り組みを定期的実施するほか、全従業員へ地震発生時の行動基準を配布するなど、ルールや計画の告知・徹底に努めています。



BCP図上訓練



放水訓練



発電機使用訓練

コンプライアンス

当社グループは、公正で誠実な事業活動を行うため、「太平洋工業グループコンプライアンス方針」を策定し、その精神を国内外で共有しています。コンプライアンスをステークホルダーの期待に応えるという視点でとらえ、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動するための指針となる「太平洋工業グループ行動基準」を全従業員に配布し、職場ごとでの読み合わせ等による周知徹底を行っています。総務部が全社的なコンプライアンス推進を担い、不正・不祥事の未然防止を図るとともに、コンプライアンスの浸透・定着に向けた継続的改善に努めています。

啓発・教育では、階層別教育、専門教育に加え、毎年3月をコンプライアンス推進月間と定め、eラーニングを利用した教育など意識高揚に繋がる取り組みを行っています。また、身近なテーマを取り上げて解説する「コンプライアンス便り」を月1回、「コンプライアンスメールマガジン」を月2回全社配信しているほか、社内イントラネット上の「コンプライアンス掲示板」には、教育資料や、事例を集めたQ&A集を掲載するなど、従業員の意識向上に努めています。

2016年5月には、従来の社内窓口に加え、経営陣から独立した「独立相談窓口」を設置しました。これにより独立性を高め、更なる通報・相談者の保護を目指しています。通報・相談者の氏名の秘匿性を確保するとともに、通報・相談したこと自体を理由とした不利益な取り扱いを禁止しています。



▲ コンプライアンス掲示板



▲ 太平洋工業グループ行動基準

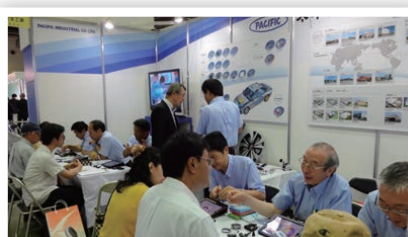
適時適切な情報開示

当社は、透明性の高い企業情報・財務情報の適時適切な開示とともに、重要情報に該当しない内容についても積極的な開示に努めています。

当社ウェブサイトの「IR・投資家情報」ページには、IRに関する多彩なコミュニケーションツールを掲載しています。アナリスト・機関投資家向けには、決算説明会の開催や、個別面談の要請にもお応えしています。また、個人投資家を対象とした名証IRエキスポへの出展や、多くの方にご出席いただけるよう土曜日に株主総会を開催するなど、対話を重視したIR活動を推進しています。



株主総会



名証IRエキスポ2017



決算説明会

■ 当社ホームページ

<http://www.pacific-ind.co.jp>



for VALUE CHAIN

経済的側面の報告

顧客重視とサプライヤーとの協働

太平洋工業グループは、お客様に満足していただける製品・サービスの提供に努めるとともに、お取引先様との強固なパートナーシップを築き、相互信頼に基づく共存共栄をめざしています。



お客様とともに

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/relation/guest/>

お取引先様とともに

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/relation/customer/>

世界No.1をめざしたこだわりのものづくりを推進

当社は、人づくりこそがものづくりの基盤であると認識し、太平洋工業のものづくりDNAの継承と、更なる進化に向けた徹底的なムダ排除による原価低減に取り組んでいます。トヨタ生産方式によるものづくりを推進し、現地・現物・現認で、「カイゼン活動」をグローバルに実施しており、SQCDD^{*}で世界No.1のものづくりをめざしています。大きな効果をあげた改善事例は、海外拠点での事例も含めて、毎年開催される「ものづくりグローバル大会」で報告しており、情報共有しています。

2016年度は製品カテゴリ(ショップ軸)ごとの「不具合真因追究活動」や、事務系スタッフを対象とした「仕事のやり方改善活動」等に取り組みました。また、技能系監督職を対象に、監督業務の強化で職場の更なる統制と活性化を図る活動を開始しており、お客様の期待に応えられるものづくりの実現をめざしています。

^{*}SQCDD: Safety(安全) Quality(品質) Cost(価格) Delivery(納期) Development(開発)

台湾拠点
の発表



米国拠点
の発表



ものづくりグローバル大会

お客様第一、品質第一

当社は、お客様に満足していただける高品質な製品を提供するため、後工程に不良品を流さない「自工程完結」を基本とし、設計・生産準備の段階から各工程で品質を造り込み、グローバル基準の品質保証体制を構築しています。

2016年度は韓国PAC社が「品質革新優秀賞」を、中国PTC社が「国産化推進賞」を、それぞれのお客様からいただくなど、海外拠点でも品質やコスト削減、納期の遵守などが高く評価されています。

品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」は国内全事業所で認証取得し、開発から生産に至るまでの一貫した品質保証体制を更に強固なものにしています。



韓国PAC社が「品質革新優秀賞」を受賞



▲ ISO9001登録証



CSの向上

当社では、営業部や品質保証部がお客様から収集した情報をもとに定期的に顧客満足度調査を行い、継続的改善に努めるとともに、お客様からの期待やニーズにお応えするためのCS(Customer Satisfaction)向上に取り組んでいます。当社の新製品・新技術・新工法などをお客様にご紹介する「技術展示会」や「技術プレゼン」等も国内外で積極的に開催しています。

2017年3月、「新ポップアップフードシステム」がトヨタ自動車より「新型レクサスLCプロジェクト表彰」を受賞しました。

「ポップアップフード」とは、自動車が歩行者と衝突した際、フードを瞬時に持ち上げることで歩行者の頭部に与える衝撃を軽減するものです。新型レクサスLCではフードを4つの支点でポップアップさせる「4点式ポップアップフード」が初採用されました。これにより、搭載スペースの削減による高いデザイン性の車両の実現と、部品軽量化、歩行者保護性能の向上が可能となりました。



仕入先様表彰

公正な取引のために

当社は、お取引先様とともに成長し、円滑に事業を推進していくため、良好なパートナーシップに基づいた長期的な共存共栄の実現をめざしています。こうした考えは、「購買基本方針」として明文化し、当社ホームページ「購買情報」で公開しています。

また、主要仕入先様に対しては、「会社方針説明会」を年に2回開催し、方針や事業の目標、課題の共有化を図っています。また、主要仕入先様については、品質やコスト・納期等、総合的に優秀な成績を収められた仕入先様を表彰するなど、パートナーシップの強化に努めています。下請法や自動車産業適正取引ガイドライン等の要請に対しては、顧客と連携し、サプライチェーン全体で取引適正化に向けた取り組みを実施しています。



太平洋グローバル会BCPセミナー



太平洋グローバル会工場勉強会

太平洋グローバル会の活動

「太平洋グローバル会」は、当社に部品や金型などを納入する主要仕入先様36社で構成する団体で、相互信頼の関係のもとに経営基盤の強化、ものづくり力の向上を図ることを目的としています。各種講演会への参加、工場見学会の開催、安全勉強会の実施、安全・品質向上の取り組み、危機管理やCSR勉強会

を実施するなど、当社と一体となり、様々な活動に取り組んでいます。2016年度は、BCP(事業継続計画)セミナー、安全体感教育、地震対策状況の確認アンケートによる現状確認を行い、サプライチェーン全体でリスクマネジメント強化の取り組みを行いました。

CSR調達

当社は、サプライチェーン全体でのCSR推進をめざし、「仕入先CSRガイドライン」に基づき、継続的な活動を展開しています。

仕入先様各社では「CSR診断シート」による自己評価を実施し、企業体質の強化に役立てていただいています。また、サプライチェーン全体で環境活動、環境負荷物質管理を推進するために策定した「グリーン調達ガイドライン」は、内容の見直しを行いながら運用しているほか、2013年度からは、JAMA/JAPIA統一データシートを採用し、納入品の成分情報調査を行っていま

す。紛争鉱物問題については、サプライチェーンにおける透明性を確保し、責任ある鉱物調達の実践に取り組んでいます。

また、世界的な課題である強制労働・児童労働問題については「仕入先CSRガイドライン」においてその対応を明記しています。



▲ グリーン調達ガイドライン



太平洋工業グループは、「人間尊重」を基本に、従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場づくりと、働きがいと誇りを持ち、創造力・チャレンジ精神が発揮できる環境・しくみづくりを推進しています。

人財育成の推進

当社では、「ものづくりは人づくり」をキーワードに、コア人材の確保と次世代人材の育成を推進しています。OJTを基本とした技術・技能の伝承に注力するほか、毎年、年間教育訓練プログラムを作成し、職種・階層ごとに教育を実施しています。また、海外で活躍できる人材の育成を目的に、若手従業員を対象とした海外短期出向や語学教育を実施しています。海外事業体においては、自立化をめざしてローカルスタッフの教育に力を入れており、日本で技術教育を行うなど、グループ全体で人材育成に取り組んでいます。



海外短期出向の様子

ワークライフバランスの推進

当社では、従業員が働きがいや成長を実感しながら、充実した私生活との両立ができる環境・風土づくりの実現をめざし、「絆と成長」をスローガンに、労使一体でワークライフバランスを推進しています。

育児に関しては、法を上回る諸制度とその周知に加え、「育児休業支援プログラム」で育児休業者への教育・フォローを実施、育児との両立をサポートしています。

2017年1月には、子育てサポート企業として、厚生労働大臣より3回目のくるみん認定を受けました。今後も男性が育児参加しやすい職場環境の推進、育児との両立支援、休暇の取得促進に注力していきます。

介護に関しては、2016年度に短時間勤務や介護休業の分割取得を可能にするなど、制度を拡充しました。また、「介護休業ハンドブック」を社内イントラネット上で公開し、情報提供を行っており、2016年度は2名が制度を利用しました。

2015年度より、社員1人につき年間12日の有休取得を目標としており、2年連続で目標達成率100%を実現しています。従業員が心身のリフレッシュを図るため、休暇を取得しやすい風土の醸成に取り組んでいます。



くるみん認定通知書交付式

厚生労働省より次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。



太平洋工業の従業員数

※2017年3月末

	男	女	合計
人数	1,508人	170人 (うち管理職3名)	1,678人
平均年齢	40.1歳	40.3歳	40.1歳
平均勤続年数	15.2年	15.2年	15.2年

従業員の状況

		2012	2013	2014	2015	2016(年度)
育児休業者数	女性	育休取得者	8人	10人	8人	12人
		取得率	100%	100%	100%	100%
	男性	育休取得者	1人	0人	0人	0人
障がい者雇用比率		1.95%	2.07%	2.04%	2.03%	2.03%
高齢者再雇用者数		33人	48人	55人	62人	64人

社員1人あたりの年間有休取得実績

	2012	2013	2014	2015	2016
目標日数	10日	10日	10日	12日	12日
目標達成率	100.0%	95.1%	97.2%	100.0%	100.0%

※数値はすべて当社単体

従業員とその家族を対象とした福利厚生イベント

職場対抗ソフトバレーボール大会や、抽選会、ミニ四駆体験コーナーなど、家族で楽しめるイベントを開催しました。

こども抽選会



ソフトバレーボール大会



ミニ四駆体験コーナー

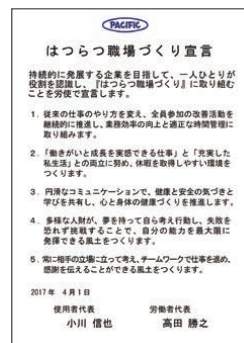


働き方改革～新「はつらつ職場づくり宣言」～

「働き方改革」の推進をめざし、2017年4月に新「はつらつ職場づくり宣言」を労使で行い、6月に岐阜労働局に登録されました。持続的に発展する企業をめざして一人ひとりが役割を認識して取り組み、多様な人財がそれぞれの能力を発揮し、成長を実感できる働きがいのある職場づくりを推進していきます。



新「はつらつ職場づくり宣言」登録証贈呈式



新「はつらつ職場づくり宣言」

女性の活躍推進



育児休業取得者への家庭教育研修会

全女性従業員のうち、役職に就いている女性は12.9%（22名）で性別・年齢に関わらず、その能力と経験を活かせる環境づくりを推進しています。男女問わず、能力のある人財を採用・選考し、能力に応じた業務の割り振りと必要な教育を行っています。さらに自己啓発費用補助や資格取得表彰制度により、自身のキャリア形成への後押しをしています。2016年4月からは、女性活躍推進法に基づき、当社における課題や目標などを含む行動計画を策定し、取り組みを進めています。

今後も、多様な働き方を選択できる職場環境づくりとともに、女性リーダー層の育成と更なる女性活躍をめざしていきます。

ダイバーシティ(多様性)の推進

当社は、従業員は会社の財産であり、個々の多様性や能力を生かして、はつらつと働ける組織をつくるのが会社の発展に繋がると考えており、個性・価値観・文化・慣習・歴史などをお互いに尊重し、いきいきと働ける職場環境づくりに努め

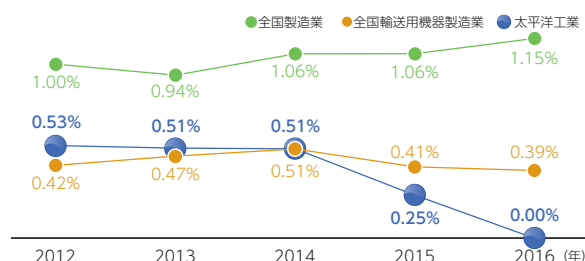
ています。外国人や高齢者、障がい者の雇用・定着支援にも積極的に取り組んでおり、障がい者の雇用率は2.03%と、法定雇用率2.0%を4年連続で達成しています。

安全・安心な職場づくり

当社は、安全第一を基本とし、従業員が健康で安全・安心に働ける職場環境の実現に向け、人づくり・環境整備を主体としたグローバルな安全管理活動を推進しています。リスクアセスメントの取り組みでは、潜在リスクの洗い出しと、顕在化した問題点・課題に優先順位をつけて対策することで、組織的なリスクの低減と、労働災害ゼロに向けた継続的改善を図っています。また、2016年度は従業員の心身両面にわたる健康づくりの支援として、産業医による健康指導や運動指導などのほか、快適な職場環境づくりを目的に、管理・監督職を対象とした「メンタルヘルス・ラインケア教育」を実施しました。また、労働

安全衛生法に基づくストレスチェック制度の運用にも取り組み、改善を進めています。

休業災害度率数率グラフ(労働時間100万時間当たりの休業者数)





for SOCIETY

社会的側面の報告

社会貢献活動

太平洋工業グループは、良き企業市民として社会との共生を図り、地域や社会から信頼され期待される「真のグローバル企業」をめざしています。豊かな社会の実現と持続的な発展に貢献するため、国や地域に根ざした社会貢献活動を推進しています。



社会貢献活動

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/social/>

夏休み科学教室

次世代育成

次世代を担う子供達や、学生、研究者を支援する様々な取り組みを行っています。



夏休み科学教室

毎年、地域の小学生を対象に、当社社員が講師となって科学教室を開催しています。子供たちは発電のしくみを学び、ペットボトルで作った風車で風力発電に挑戦。その電気を蓄電池に溜め、自動車模型を走らせるレースも行いました。

地域の高校へ出張教育

当社の海外赴任経験者が、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールに指定されている大垣市内の高校において、体験に基づくエピソードを語る授業を行いました。



地域の高校で出張教育

工場見学

東大垣工場では地元大学生・高校生・教員らを対象に工場見学を開催し、西大垣工場では地元の小学生、美濃工場では地域の皆様の見学受け入れを行いました。車を身近なものと感じてもらえるよう工夫し、ものづくりへの興味・理解を深めるとともに「働く」ことへの意識向上を図っています。



燃料電池自動車「MIRAI」の見学



美濃工場でからくり体験

タイで学校備品寄贈

タイの子会社では毎年近隣の小学校に、教育備品を寄贈しています。2016年度は学習環境の向上に役立てていただくため、プリンター、扇風機、スポーツ用品等を寄贈しました。



小学校への備品寄贈

小川科学技術財団

当社の創業者故小川宗一が創設した(公財)小川科学技術財団は、科学技術の振興と地域産業の発展に貢献することを目的に、毎年岐阜県内の大学や高専、高校などの研究者に対し助成金を交付しています。2016年度は25件の研究に対し、総額1,514万円の助成を行いました。



FC岐阜

当社はサッカーJ2リーグに所属する「FC岐阜」をオフィシャルスポンサーとして支援しています。2017年4月には「太平洋工業サックスマッチ」を開催しました。

© Kaz Photography/FC GIFU



地域振興・スポーツ振興

教育・文化・スポーツ支援をはじめ、
地域活性化のための活動を推進しています。

大垣ミナモソフトボールクラブ

大垣市のクラブチーム「大垣ミナモソフトボールクラブ」の活動を、地域の企業とともに支援しています。



十萬石まつり

地域活性化と交流促進のため、地元イベントに積極的に参加しています。



寄付活動

養老町が主催する「養老改元1300年祭事業」に対し寄付を行うなど、地元地域の行事運営に協力しています。また、公益財団法人オイスカを通じて、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県名取市の海岸沿いにクロマツを植える活動など、環境保全や復興支援につながる活動にも寄付を行っています。

養老町への寄付



ソフトテニス部



学生への指導 ▶



社員によるボランティア活動

当社のボランティアクラブは、バザー等の収益で継続的にカンボジアへの支援を行っており、2016年度はカンボジアの孤児院を訪問し、寄付を行ったほか、農業用水を確保するため池をつくるための支援を行いました。

また、当社の社員で工場周辺や地域の清掃活動を定期的に実施するなど、ボランティア活動を推進しています。



カンボジア孤児院へ寄付



除草作業

【女子】日本リーグ1部に所属し、2016年12月の大会では2年連続で日本リーグ3位入賞を果たし、当社ソフトテニス部女子で歴代最高の成績を収めています。また、ボランティアで地域の学生の指導を行うなど、スポーツ振興に努めています。

【男子】2016年度より東海実業団リーグ2部に昇格し、2017年11月に行われる入替戦で1部への昇格を目指しています。



for ENVIRONMENT

環境的側面の報告

環境経営の実践

当社では、3つの経営理念のひとつに「環境理念を掲げるとともに、社会から期待される“良い会社”をめざし、2つの環境方針を定めて、事業活動のすべての段階で環境保全に配慮し、行動しています。



環境への取り組み

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/>



環境理念

地球環境保全に努め、社会から期待される "良い会社" でありつづけます。



環境方針

- ① 事業活動を通じて環境改善に努め全社環境4目標を達成するとともに、環境関連法令を遵守する。
- ② 環境方針を全社員と仕入先に周知徹底し、日常業務を通して、環境意識向上を推進する。

2017年の環境目的・目標

	目 的	目 標
① 環境に優しい 製品・工法・技術の開発	2015～2020年度までの新技術・新工法開発 累計件数： 150 件 以上	2017年度の開発件数： 25 件 以上
② CO ₂ 排出量の削減	2030年度までに、CO ₂ 売上原単位を 2007年度比 20 % 削減	2017年度は2007年度比CO ₂ 売上原単位を 10 %削減、排出量 25,660 t 以下 CO ₂ 売上原単位を 38.88 t/億円 以下
③ 廃棄物発生量の削減 (マテリアルリサイクル除く)	2020年度までに 2001年度比 73 % 削減	2017年度は 325 t 以内を維持
④ VOC大気排出量の削減	2020年度までに 2000年度比 30 % 削減	2017年度は 2016年度比 3.9 % 削減(目標123.3t)



ISO14001の取得状況

当社では、ISO14001の認証取得はメーカーとしての必須要件として捉え、グループ会社を含めたグローバルな環境マネジメントシステム(EMS)の積極的な構築と維持に努めています。

環境の外部審査と内部監査

当社では、環境マネジメントシステムの適正な運用及び継続的な改善を図るため、「外部機関による審査」と併せ、「内部監査」と「マネジメントレビュー(トップ点検)」を実施しています。2017年9月に外部機関による定期審査及び2015年改訂版への移行審査を行い、要求事項に適合しているとの認証を受けました。また、内部監査は、相互監査による率直な議論・意見・提案を行う重要な機会とし、全体レベルの向上を図っています。



CO₂排出量の削減

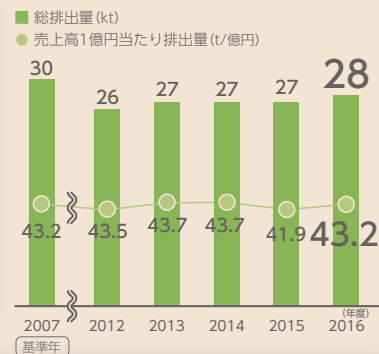
当社は、2015年に採択された「パリ協定」に基づき、地球温暖化対策としてエネルギー源の見直しや省エネ設備への転換による省電力化、CO₂排出量削減に貢献する製品・工法・技術の開発を推進しています。

2016年度は、西大垣工場で乾燥炉熱源として使用していたLPガスおよび重油を都市ガスに転換しました。これにより、年間のCO₂排出量を810t削減しました。



都市ガスを利用したボイラー

CO₂排出量の推移



総排出量

目標

23.9kt

実績

28kt

目標
未達成

売上高
1億円当たり
排出量

目標

39.3t/億円

実績

43.2t/億円

目標
未達成



廃棄物の削減

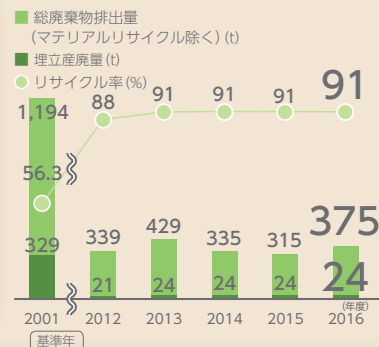
当社は、廃棄物排出量の削減と、発生した廃棄物を再資源化し、埋立廃棄物を削減する取り組みを推進しています。廃ゴムや樹脂などを中心にマテリアルリサイクル化を進めるとともに、総廃棄物排出量の削減に努めています。

2016年度は、西大垣工場に保管していたPCB電気工作物であるコンデンサー26台を、PCB特措法に基づき、適正に処理しました。



樹脂の再生ペレット

廃棄物関連の推移



総廃棄物排出量

目標

325t

実績

375t

目標
未達成



化学物質管理

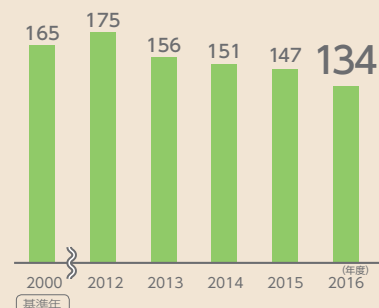
当社では、国内外の法令を遵守し、原材料に含まれる環境負荷物質の管理・削減を図るとともに、生産工程で使用する化学物質を適正に管理しています。工程改善・代替技術の開発に取り組んでおり、塗料の切り替え、塗装レス製品の開発など、VOC削減に努めています。

お取引先向けには毎年「JAMA/JAPIA 統一データシート」で成分情報調査を実施しており、未提出のお取引先様にはフォローを行っています。今後は提出状況や内容に応じて個別に面談を行うなど、化学物質管理体制を強化していく予定です。



ハイソリッド塗料を使用した
ホイールキャップ

VOC排出量の推移(t)



VOC排出量

目標

125.9t

実績

134t

目標
未達成

※掲載数値は全て当社単体



for ENVIRONMENT

環境的側面の報告

地球環境との調和・コミュニケーション

太平洋工業グループは、自然や地域との共生をめざし、生物多様性保全に向けた取り組みや、環境コミュニケーションの充実を図っています。



環境への取り組み

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/>

生物多様性の取り組み

当社は、「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加し、生物多様性の保全を重視した自然保護活動を推進しています。

太平洋里山の森活動

太平洋工業グループは、2009年に岐阜県・大垣市と「企業との協働による森林づくり協定」を締結し、同市上石津町の「太平洋里山の森」において、従業員とその家族や地域の方と共に様々な活動を行っています。昨年度の活動内容は以下の通りです。

2016年11月の活動(参加者：250名)

- 実施内容**
- ・やまぐりの苗木の植樹
 - ・ビオトープの水路づくり
 - ・里山から出る間伐材を使った写真立て作り
 - ・木の葉やどんぐりなどを使ったクリスマスリース作り

2017年3月の活動(参加者：200名)

- 実施内容**
- ・やまぐりの苗木の植樹
 - ・ビオトープの整備・補強
 - ・里山から出る間伐材を利用したいたいけの菌打ち体験
 - ・間伐材を利用した積み木遊び



活動参加者で集合写真



やまぐりの植樹



間伐材の積み木遊び



しいたけの菌打ち体験

今後も里山活動を通して、循環型社会や森林・環境問題の理解促進に取り組んでいく予定です。

環境コミュニケーション

当社は、各工場の近隣住民の皆様や行政担当者を会社にお招きし、定期的に地域懇談会を開催しています。環境保全や安全、CSRの取り組みをご紹介しますとともに、実際に工場内や環境設備を見学いただきます。2016年11月には北工場・美濃工場で、それぞれの地域の方をお招きし、意見交換を行いました。

また、メッセナゴヤに継続出展するとともに、中学校や大学で出張教育を実施し、次世代環境教育を行っています。



岐阜大学での環境講座



美濃工場での地域懇談会

グリーン電力の購入

当社は、大垣市が進めるグリーン電力活用推進事業の一環である、グリーン電力の購入に協力しています。これは、家庭での太陽光発電で発電・消費した電力を「環境価値」として大垣市が買い取り、さらにそれを地元企業が買い取ることで、エネルギーの地産地消をめざすものです。当社は2017年3月にこのグリーン電力30,000kWhを購入し、大垣市よりグリーン電力証書の交付を受けました。グリーン電力の購入を通して地域の太陽光発電の普及・促進に貢献し、企業活動と環境の調和をめざします。



グリーン電力の購入

第三者意見

CSR レポートは今回で11号目の発行を迎えます。太平洋工業株式会社では、CSR 活動の推進において、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションが非常に重要であると認識されており、本CSR レポートをコミュニケーションツールとして大いに活用されています。以下では、CSR レポートに掲載されている取り組みの中から、特に注目すべき点について取り上げたいと思います。

株式会社 OKB総研

大垣共立銀行のシンクタンクとして、銀行と一体となり、地域の産業・経済および暮らしと文化などについての調査・研究を通じて、産業の振興、企業の発展、および地域の皆様の暮らしと文化の向上をめざしている。



株式会社 OKB総研
社長 五藤 義徳

■評価したい点

トップメッセージでは、2018年度を最終年度とする中期経営計画の目標値達成に目処が立ったことから、2017年10月に新たな中期経営計画「OCEAN-20」を策定されたことが紹介されています。社会から信頼され期待される健全な事業活動こそがCSRの基礎であると捉えている御社において、具体的アクションプランである中期経営計画に早い進捗で目処を立て、前倒しで新たな計画を策定された果敢な経営姿勢は、大いに評価したいと思います。また、新計画は、策定にあたり、創業100周年をも見据え、職場ごとに課題やあるべき姿について議論し、従業員の思いを込めた内容とされています。「ものづくりは人づくり」を信念としている御社らしい「人」に重きを置いたアプローチであると思います。引き続きステークホルダーとの親密なコミュニケーションを図り、グループを挙げてCSR活動に取り組まれていくことを期待しています。

特集1のトップ対談では、村上管主と小川社長が「こころ」の大切さについて語り合う内容となっています。他人を思いやる「こころ」や、社会に役立つ仕事をしていることが自分自身の喜びとなる「こころ」などを従業員が育み、根付かせることが大切であり、この「こころづくり」が「ものづくりは人づくり」を具現化し結果として企業の成長に繋がるというものです。また、村上管主が「仏教では、自分のことだけでなく人のために働く、利他業が一番中心になります」とおっしゃっています。これは、企業経営におけるCSRの考え方に通じるものです。宗教と企業経営は、どちらも「人」と「こころ」が重要であるという点において共通するものがあり、大変興味深い内容であったと思います。

特集2では、事業活動を通じたCSRの取り組み事例が紹介されています。一つは、超ハイテン材を用いた冷間プレス工法の開発で、もう一つは、日本初の技術であるオールウレタンエンジンカバーの開発です。いずれも、取引先から求められる高い品質の維持・向上を図りつつ、軽量化や電力使用量

の少ない工法の開発により、環境負荷の軽減を実現させています。低炭素社会の実現に寄与する製品を開発されたことを評価したいと思います。常に新しい技術や製品の開発にチャレンジしている御社には、社会に役立つ製品を開発していくという強い思い（こころ）が育まれており、「ものづくり」の結果として結びついています。「人」の育成が企業価値の向上にしっかりと繋がっていると実感しました。

特集3では、御社グループの海外拠点が取り組んでいるCSR活動が紹介されています。タイでは従業員らによるマングローブの植樹や社員向け交流イベントが実施され、また、中国、米国、韓国でも、それぞれの地域の実情に応じたボランティア活動などが行われています。グローバルに事業展開している企業は、多様な価値観を持った人々と協働していく必要があります。海外拠点でのCSR活動は、お互いを思いやる「こころ」の醸成に大いに役立ち、また、国際社会という重要なステークホルダーとのコミュニケーションの充実の観点からも効果的であり、評価したいと思います。今後も、海外拠点を有する企業のモデルとなるよう、積極的な取り組みを期待します。

■今後に期待したい点

環境への取り組みとして環境理念に基づく方針を定め、定量的な目標の設定が行われています。しかしながら、高い企業理念に基づく目標設定や社会情勢の変化等もあり、結果として目標の未達成項目が散見されます。御社がグループを挙げて推進しているCSR活動に対する様々な取り組みは、大いに評価に値するものであり、これに定量的な目標の達成が加わることで、より一層CSR活動への評価が高まるものと思います。

引き続き、ものづくりを通じて新たな価値の創造に挑戦し、持続可能な社会の実現を目指し努力されることを期待します。

第三者意見を受けて



CSR担当
取締役専務執行役員

小川 哲史

CSRレポート2017に、貴重なご意見をいただきありがとうございました。報告書でご紹介した当社の取り組みに対し、一定の評価をいただきましたことは今後のCSR活動の取り組みへの大きな励みとなります。

ご意見をいただきました環境目標の未達成に関しましては、事業環境の変化に影響されることなく目標を達成できるよう、取り組みを進めてまいります。また、低炭素社会の実現に貢献することはメーカーとしての重要な役割と認識し、今後も軽量化や低燃費に寄与する製品・工法・技術開発に注力してまいります。

現在の自動車業界は大きな変革期を迎えており、多くの課題を克服していかなくてはなりません。そのためにも、「ものづくりは人づくり」の考えのもと、人財を基軸とした経営を行ってまいります。また、従業員の個性や創造性を尊重しながら、自己変革を促す風土・チャレンジする風土を醸成することにより、企業基盤の強化を図ってまいります。

当社は新中期経営計画「OCEAN-20」の達成のため、グループ全体で歩みを進めるとともに、今後も継続的なCSR活動に取り組み、新しい価値を創造してまいります。

ぼくたち、わたしたちの夢。

表紙の絵は、太平洋工業グループ従業員の子供たちが環境について描いたポスターです。

かけがえのない地球を守るために何ができるか・・・

親子で会話をしながら環境への関心を高めてもらうことを目的に、

各拠点で募集を行い、ロビーに展示をしています。

子供たちが絵に込めた心からのメッセージを感じとっていただければ幸いです。



www.pacific-ind.co.jp

このCSRレポートには、森林に配慮して適切に管理された森林認証用紙（FSC®認証用紙）、有害な VOC（揮発性有機化合物）成分が含まれていない植物油インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じく VOC を大幅に低減する水なし印刷が採用されております。



太平洋工業株式会社

〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地

TEL : 0584-91-1111 (大代表) FAX : 0584-92-1804

